

# 安全作業手順書【排水溝補修】

作成日・改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC~春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC~飛鳥北IC,有松IC~上社JCT)
機器工具・車両	スコップ、ハンマー、バール、清掃用具一式、攪拌機	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ 保護メガネ、切削作業用手袋、軍手、皮手袋

見積り基準をした危険性の評価		見積り基準をした危険性の評価			
		重大性(B)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
可能性(A)	○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	△△ (極めて小さい)	△△ (かなり小さい)	△× (中程度)	○×
	△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)	△×
	× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	××	××

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性が見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では不要なし (補修を要)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ)			リスクの再見積り		
			(～なので～になる)			(A)	(B)	リスク	(私達はどうする)			(A)	(B)	リスク

準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう	作業員全員で	手順間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1
		作業員の役割(運転手、助手)を決める	免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する	○	△	2
		作業場所及び車線を確認する	上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように	/	/	/	/	/	/	/	/
		ケーブル近接協議の内容を確認する	試験を併う場合は協議日を確認して	協議承認日以前に作業を行ってしまう	△	×	4	作業日と協議日とを照合し、確認を行う	○	○	1
本作業	車両確認	交通規制状況を確認する	必ず当日の規制簿を使用し	/	/	/	/	/	/	/	/
		使用機械、工具等の点検を行う	作業前に	作業中に機械が故障し、思わぬケガをする	△	×	4	作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う	○	○	1
		しらすんだーの動作確認を行う	規制班と一緒に	/	/	/	/	/	/	/	/
		車両準備	作業車両準備	25.車両回送手順書に則る							
作業車両点検	作業車両点検										
出発準備	出発準備										
出発	出発										
規制内進入	規制内進入										
車両移動	車両移動										
停止	停止										
逃走防止	逃走防止										



使用機器等	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指が挟まれて気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2
-------	--------------	--	-----------------------------------	---	---	---	--	---	---	---

試験及び立会	埋設物の確認を試掘にて行い、立会いを受ける	試験がある場合は試験作業手順書に則って	試験作業手順書に則る								
--------	-----------------------	---------------------	------------	--	--	--	--	--	--	--	--

撤去	破損箇所の撤去清掃	撤去範囲の確認をおこなう。	破片が大きいまま持ち上げようとして体を痛める	△	△	3	無理な姿勢で作業をしない。 大きな破片は複数で持ち上げるか小さくする。	○	○	1
----	-----------	---------------	------------------------	---	---	---	--	---	---	---

打設	型枠を設置する	十分な強度を得られるように	ハンマー等で手指を叩く	△	△	3	保護手袋等を使用する。	○	○	1
	モルタルを用意する	セメント砂の配合量を確認しながら	攪拌機使用時に手指を巻き込まれけがをする。	○	×	3	回転部分に触れないように	○	○	1
	モルタルを用意する型枠に打設する。	型枠を叩くなどして端部でモルタルが行き渡るように	飛び散ったモルタルが目に入る 打設時、モルタルがあふれて路上に散乱する	△	△	3	保護メガネを使用する。 打設箇所にブルーシート等で路面を養生する	○	○	1

型枠撤去	型枠を撤去する。 清掃道具で場内清掃を行う	モルタルが固まり十分な強度が得られたことを確認して 車線側への飛散に十分気を付けて 使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように	/	/	/	/	/	/	/	/
現場離脱及び	25.車両回送手順書に則る									
帰着	25.車両回送手順書に則る									
駐車	25.車両回送手順書に則る									

後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/
特記事項	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地でKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。								

特記	パワーゲートを使用し荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にバルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライドバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②バルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触到注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1